



和歌山大学 南紀熊野サテライト 2013年度 事業総括書

2014年3月

和歌山大学地域創造支援機構

南紀熊野サテライト

はじめに

◆地域課題を扱った講座・授業の開設や、南紀熊野地域での学生、教員の教育研究活動を拡大した年

和歌山大学南紀熊野サテライトは、2005年の4月に「地域型サテライト」として設置されて9年目を迎えた。2013年度の取り組みでは、防災教育やふるさと教育に繋がる「ジオツーリズム」を題材とした授業や講座、サイエンスカフェなど多様な講座・授業を開講して、災害の備えや地域学の学習機会を体系的に設置した。また県の観光誘客が増えるゴールデンイヤーに併せて、社会人を対象に次世代の観光のあり方を学ぶ実践的な学びの場「南紀熊野観光塾」を開催。自治体職員、観光業従事者、地域住民など多数の参加を得た。「地域を支え地域に支えられる大学づくりプロジェクト」（独創的研究支援プロジェクト）への課題提案や、研究チーム教員等と連携した地域での調査研究支援、報告会を行い学生や教員の演習や研究支援など幅広い連携活動を実施。また地域拠点のサテライトとして、同窓会組織や多分野の学内外の連携機会を幅広く展開した年となった。本報告書において2013年度事業を総括してみたい。

◆2013年度事業の特長・課題（※特長・課題とも絞り込むため5つに絞っている）

2013年度の南紀熊野サテライト事業の特長・課題を、箇条書きにまとめたい。

【5つの特長】

①地域学に根ざした授業編成、多様な学習機会を設置

→今年度より学部授業を体系的に学ぶ授業編成に変更。紀伊半島の災害や暮らしのリスクと恵みを学ぶ「紀州郷土学」「地域暮らしの安全学」を設置。若年層も参加できる「サイエンスカフェ」（ジオカフェ）や市街地のカフェでの「宇宙バー」を実施。また、全国の実践者を招き「南紀熊野観光塾」を開講。同窓会主催のフィールド学習会など多様な学習機会を実施。

②地域課題（地域の経験知）と大学研究（専門知）を連携した地域貢献

→学内独創的研究支援プロジェクト「デジタルアーカイブプロジェクト」「防災プロジェクト」に参画。「ジオツーリズム研究会」の高等教育機関コンソーシアム和歌山・平成25年度大学等地域貢献促進事業受託研究「紀南地域のジオコンテンツと文化・精神性との関連性の探求とフィールドガイド養成のための教材開発」など、学内研究と地域研究のコーディネートや研究会の運営支援を実施。

③台風12号災害対策本部分室としての活動

→新しい研究技術を紹介するパネルディスカッションや、災害発生当時の状況、復興時の資源利用への提案など学内研究の成果報告会として開催した防災講演会（新宮市）などの運営支援を実施。

④自治体・教育委員会・地域との連携協働の推進

→自治体の社会教育・生涯学習事業（田辺市まちづくり市民カレッジ、県教委繋パーソン事業）など地域づくり・人づくり事業に参画して、地域と大学の連携を実施。

⑤学内外への広報戦略の拡充 ⇒【※掲載新聞、広報紙は資料集を参照】

→学生制作広報紙の配架やデジタルサイネージ（映像表示装置）の設置。HP、パンフレットを分かりやすい仕様に変更。新聞やラジオなどメディアへの情報提供。地域での教育研究活動などを学内外へ情報発信して相互理解を深めている。

【5つの課題】

- ①教育研究活動による地域発展モデルの構築・更なる連携推進で「知の循環」を図る。
- ②サテライトと連携した学生の教育研究支援の学内組織体制の構築。
- ③東牟婁エリアとの更なる連携活動。
- ④サテライトを活用した学生、同窓会組織、小中高大連携の推進。
- ⑤サテライトの認知度向上に向けた戦略的な広報活動。

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2013年度

目 次

1、はじめに

南紀熊野サテライト 2013 年度の事業概要と課題

2、具体的活動成果 授業実施状況

【1】 高等教育部門／主催講座関係

【2】 地域研究・生涯学習部門

【3】 地域連携産学官連携部門／地域からの相談

【4】 本学防災対策本部分室の活動（台風 12 号対策）

【5】 運営基盤の強化／視察受入等

3、あとかき

4、新聞掲載資料

【1】高等教育部門／主催講座関係

1-1 高等教育（大学院・学部授業）関係

大学院受講者5科目延べ18名（修士課程含）、学部受講者4科目延べ85名（高校連携含）合計103名

※備考：南紀熊野サテライト修士課程研究指導申請なし、学部申請者：前年度比34名増加

《平成25年度 南紀熊野サテライト受講生申請状況一覧》

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	修士課程	高校生	
大学院	前期	歴史的環境と地域づくり	永瀬	観光学部	3	1		4
		地域と教育・発達支援Ⅱ	松浦、他3名	教育学部	4	0		4
		現代社会と民法	吉田	経済学部	3	2		5
	後期	産業と地域経済	藤田	経済学部	2	1		3
		情報通信システム概論	斉藤、他4名	シス工学部	1	1		2
					合計			18

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	本学より	高校生	
学部	前期	紀州郷土学A	此松、他4名	オムニバス	30	1	1	32
		みんなの科学入門	木田、中原	オムニバス	5	1	1	7
	後期	紀州郷土学B	高須、他5名	オムニバス	30	1	1	32
		地域暮らしの安全学	大泉、他5名	オムニバス	14	2	0	14
					合計			85

※オムニバス（学部複合での開催の意味）

総合計	103
-----	-----



大学院授業の様子「地域と教育発達支援Ⅱ」



学部開放授業の様子「紀州郷土学A」

《実施概要》

①大学院科目の概要

《地域へのフィールドワークを取り入れた地域型の授業を実施》

教室での座学だけでなく地域の活動について実践者への聞き取りや視察調査を行うなど学習を深めた。「歴史的環境と地域づくり」では田辺市での古民家等を宿泊施設や飲食店へ転用するリノベーション事業や都市計画事業について現地調査を行い、経営者やまちづくり会社職員から近年の実施内容について意見交換を行った。「産業と地域経済」では、海南市のタワシ産業の現状と伝統的な地場産品を活用した「棕櫚タワシ」の製造工程を見学。製造の体験を行うなど地域産業についての理解を深めた。

②学部科目の概要

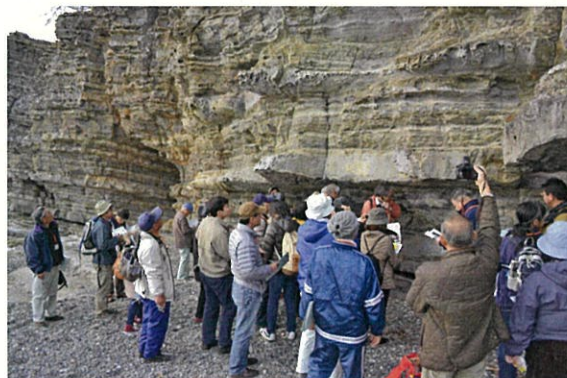
《今年度より総合的・体系的な学びの機会に、2年間の継続授業科目として設置》

大学内の教養改革に準じて学部開放授業科目を総合的、体系的な学びの機会として編成。南紀熊野地域の諸課題に対する地域ニーズの高い内容について聞き取り、コーディネーターにより学内研究 PG 教員等と調整を行い研究成果の地域還元として授業を開講。紀伊半島の災害や暮らしのリスクと恵みを学ぶ「地域暮らしの安全学」と、「紀州郷土学」2つのコースで編成。自然災害を地盤の形成から考え、同時に地形地質から生まれる豊かな自然の恵みと歴史文化の立ちを学ぶものとして開講。暮らしの安全学では災害だけではなく。地域の暮らしの中での経済や教育のリスクといった内容も取り扱った。地域住民の共感を得て学部開放授業の受講希望者数が増加。地元教員や、ジオパーク担当の自治体職員等の研修目的でも受講されて定員を超える受講者となった。

また、今年度から、前期・後期と継続して受講した者へ「修了証」を発行するなど、継続受講を推奨した PR も実施。受講生32名中19名が継続申請を行い年間の継続受講者が増加した。県教育委員会との連携により実施している「高校生を対象とした大学授業の公開」事業に申請した地域高校生の他、和歌山大学生、地域住民がサテライトの同じ教室で大学の講義を受ける機会となった。



リノベーション施設での授業風景（田辺市紺屋町屋）



紀州郷土学フィールドワーク風景（白浜町志原海岸）

③その他

《南紀熊野サテライト大学院進学相談会を実施》

開催日：平成25年11月23日（土・祝） 参加9名

会場：和歌山情報交流センターBig.U内 ネットワーク研修室

内容：和歌山大学経済学部経済学修士課程への進学相談会を実施。

大泉サテライト長より修士課程の制度と申請方法、指導教員や研究について説明を行った。

1-2 主催講座・発表会関係

《和歌山県でのゴールデンイヤーに合わせて実践的な観光の学びの講座、講演会を開催》

和歌山大学観光学部の教員と連携して東牟婁、牟婁地域にて観光の講演会を開催。また、学内研究プロジェクトの成果報告会として防災講演会を新宮市にて開催。その他、南紀熊野サテライト連携協議会主催の公開講座&受講生募集説明会を春と秋に開催。サテライト主催にて3月には、修士論文発表会、退官記念講演を実施した。

◇開設した講座関連の概要は次頁

《サイエンスカフェ、観光塾など、多様な学習機会を設置》

授業終了後に、館内のオープンカフェスペースを利用して引き続き、若年層も参加できる「サイエンスカフェ」を月に一度程度開催。他大学の講師や、先進地の実践者を招いて地域関心の高まっているジオパークやツーリズムをテーマにした「ジオカフェ」などを複数回設置した。

自治体職員や地域住民に混じり、地元小学生の自由研究、観光を学ぶ高校生の参加や大学生の参加など多様な世代が集まる機会となった。講師に自由に質問できる気軽さもあり、毎回定員を超える参加を得た。

会場も館内だけでなく、市街地のカフェバーを利用してジャズミュージックと宇宙を楽しむ「宇宙バー」を開催するなど、身近にサイエンスを学べる学習機会を設置した。

《同窓会主催の「紀州郷土学のフィールドワーク」を実施》

県自然環境室の「南紀熊野ジオパーク活動調査研究事業」へ同窓会主催にて申請を行い、「南紀熊野ジオサイト見学・学習会」と題して開催。授業の受講者に加えて一般住民も募集して40名を超える参加者となった。ジオパーク研究活動調査として参加者アンケート調査を実施。専門用語の分かりにくい言葉や快適に見学するための工夫など調査した。講師に学部開放授業「紀州郷土学A」の担当教員3名が参加。県内南部のジオサイトを大型バスで見学して、地形や地質、植生、食文化についての地質巡検を実施。

《南紀熊野観光塾2013を開催》

社会人の実践的なリカレント教育として、選ばれ続ける地域を考え、30年後、50年度の観光と地域経営を学ぶ塾を開塾。観光塾の講師に、観光学部の出口竜也教授、竹林浩志准教授、山田桂一郎客員教授を迎えて、全国の先進地の経営者やプロガイドが登壇するなど、観光の実践的な学びの機会を提供。和歌山大学観光学部の集中講義の一部を、同時に大学からネットを活用しサテライトに配信中継するなど、新しい取り組みも実施した。塾生には、自治体職員、地域住民、観光業従事者、農林水産業、主婦、学校教員、和歌山大学観光学部生など32名の登録があり、幅広い業種と世代が同じ教室で地域を考え今後具体的に実践するための中核人材育成の機会を設置した。

①南紀熊野観光塾2013開塾記念講演

《西牟婁会場の開催内容》

講演名：「選ばれ続ける地域とは」—なぜ地域振興に観光が必要なのか—

開催日：平成25年月9日6日（金）18：30～20：30 参加70名

会場：和歌山県情報交流センターBig.U 研修室1（田辺市）

講演者：山田桂一郎塾長（JTIC SWISS 代表、観光カリスマ、和歌山大学客員教授）

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト 後援：和歌山県

内容：「選ばれ続ける地域とは part 1」と題して、南紀熊野観光塾の開塾記念講演を開催。

開講挨拶：出口竜也教授（観光学部）、竹林浩志准教授（観光学部）の後、記念講演。

自治体職員、観光業者、地域住民、農林水産業、主婦、学校教員、学生等32名が塾生に登録。南紀熊野地域のこれからの観光や地域経営の姿を考え、次世代の地域での中核となる人材の育成を目的に開講。9月～1月にかけて、一ヶ月に一度の塾講演と宿泊研修を開催。

「30年後50年後の南紀熊野地域の姿」を想定して持続可能な暮らしと、あるべき観光の姿を考える議論を深めた。様々な世代や業種が集い、同じ教室で今後の和歌山県の観光や地域経営のあり方について考える機会となった。最終回は合宿形式にて具体的な目標を設定するなど、計12回の塾を開催。全国先進地の経営者やガイドが多数登壇する実践的な学びの場となった。

また、和歌山大学観光学部の集中講義に登場した先進地ガイドの講義の一部を同時にネット配信でサテライトに中継するなどの新しい取り組みも実施。



南紀熊野観光塾第一期生（田辺市 Big.U）



南紀熊野観光塾の講義風景

②南紀熊野観光塾2013特別講演

《東牟婁会場の開催内容》

講演会：「これまでの観光とこれからの観光」—南紀熊野がめざすこと—

開催日：平成26年月1日21日（火）18：30～20：30 参加40名

会場：月の瀬温泉ぼたん荘いろり館（東牟婁郡古座川町）

講演者：山田桂一郎塾長（JTIC SWISS 代表、観光カリスマ、和歌山大学客員教授）

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト 後援：和歌山県

内容：「これまでの観光とこれからの観光」と題して、南紀熊野観光塾の特別講演を開催。塾生と宿泊研修にて「南紀熊野30年、50年後の姿」についてグループワークを実施。その成果報告や古座川町の現状を事例に、人口減少が進む地域を維持していくための産業として「観光」を捉えて、この地域でないと味わえない、体験できないことの必然性について講演を行った。



南紀熊野観光塾特別講演の様子（古座川町）



塾生によるグループワークの報告の様子

③南紀熊野サテライト連携協議会

《H25年度後期 公開講座&受講生募集説明会》

開催日：平成25年8月25日（日）13：00～15：00 参加20名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4

内容：記念講演「熊野の祭り」と古座流獅子舞」

講演者：吉村特任准教授（和歌山大学紀州経済史文化史研究所）

記念講演「地域暮らしの安全学」—暮らしのなかのリスクを考える—

講演者：大泉英次教授（和歌山大学経済学部）

後期学部開放授業紹介「地域暮らしの安全学」「紀州郷土学B」担当教員の授業紹介ビデオを上映。

④南紀熊野サテライト連携協議会

《H26年度前期 公開講座&受講生募集説明会》

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトオープンキャンパスセミナー」

開催日：平成25年2月16日（日）13：30～16：00 参加40名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室1

内容：開会挨拶・受講生募集説明会（大泉英次・経済学部教授、南紀熊野サテライト長）

記念講演「平成23年台風12号による和歌山県内の土砂災害ー地形・地質から見た特徴ー」

講演者：江種伸之教授（和歌山大学システム工学部）

平成23年台風12号で問題となった深層崩壊や土石流といった土砂災害が発生するメカニズムとその対策について紹介。

記念講演「世界遺産と景観保全」講演者：永瀬節治（観光学部講師）

世界遺産を継承する上で不可欠な景観保全の考え方と仕組み課題について紹介。

前期学部授業「紀州郷土学」概要紹介、授業構成の説明。担当教員の授業紹介ビデオを上映。



H25 年度後期 公開講座の様子（吉村先生）



H26 年度前期 オープンキャンパスセミナーの様子

⑤和歌山大学南紀熊野サテライト修士論文発表会、退官記念講演会

開催日：平成26年3月22日（土）14：00～16：00 参加35名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4

内容：修士論文報告1名、田伏泰久氏「小規模自治体の防災計画と土地評価制度の研究」

担当教員講評：大泉英次（経済学部教授）

退官記念講演「地域に学んだ13年 地域再生の現場から」

講演者：鈴木裕範教授（きのくに活性化センター事務局長、和歌山大学経済学部）

退官記念講演「南紀熊野サテライトの10年を振り返って」

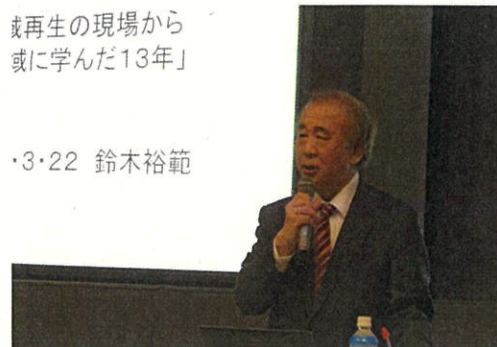
講演者：大泉英次教授（南紀熊野サテライト長、和歌山大学経済学部）



修士論文発表会場の風景



修士論文報告を行う田伏氏



退官記念講演の様子 大泉英次教授（左側）鈴木裕範教授（右側）

1-3 サイエンスカフェ関係

《幅広い世代が参加可能な「サイエンスカフェ」を実施》

講演会スタイルではなく、専門家による話題提供の後に、お茶を飲みながら参加者と専門家が自由に語る場として、新しい形での学びの企画となった。地域関心の高まるジオパークやツーリズムを題材として「ジオカフェ」を複数回開催した。また、デジタル機器やアプリの活用「デジカフェ」も開催した。

①ジオカフェ

講演名：「ジオパークって実際どうなんですか？」

開催日：平成25年6月8日（土）17：30～19：30（Big・U中庭カフェ） 参加30名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 中庭カフェ

講演者：中串孝志准教授（和歌山大学観光学部 地域再生学科／和歌山大学宇宙教育研究所）

内容：話題提供者に深見聡先生（長崎大学水産・環境科学総合研究科環境科学領域 環境科学部人間社会環境学系）、松原典孝先生（兵庫県立大学自然・環境科学研究所ジオ環境研究部門／山陰海岸ジオパーク推進協議会）が行い、30名が参加。先進地の九州地域、山陰海岸等の事例から和歌山県南紀熊野構想エリアにある地質や自然、食文化や教育など地域資源について語り合った。

②ジオカフェ

講演名：「みんなで作ろう！「わかやまごころ」のジオツアー」

開催日：平成25年7月20日（土）17：30～19：30 参加30名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 中庭カフェ

講演者：此松武彦氏（やまごころ.jp 編集長）、出口竜也教授（和歌山大学観光学部）

内容：ナビゲーターを此松昌彦教授（和歌山大学教育学部）に観光やジオツーリズム等、地域資源を活用するための視点や和歌山県の自然遺産のイメージ、食文化について意見交換。「感動」が共感に繋がるというテーマ設定で参加者と地域にあるジオサイトの魅力と可能性について語り合った。



小学生、高校生、住民、自治体職員等幅広い世代が参加（ジオカフェ）

③デジカフェ

講演名：「Evernote 講座」と「Gmail 講座」

開催日：平成25年6月18日（火）18：30～20：30 参加8名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 講師控室

講師：IT アドバイザー平野隆則氏

内容：普段から使っている自前のノートパソコンやスマホ、タブレットを持ち込み、実演しながら説明。ノートパソコンやスマートフォン、タブレットをもっと便利に使う方法を紹介。講師と一緒にコーヒーを飲みながら気楽に学べるカフェとして開催した。

④宇宙バー

講演名：「あなたと星と音楽と」

開催日：平成25年7月26日（金）19：00～21：00 参加30名

会場：Cafe&Bar B-1（田辺市）

内容：ナビゲーターに観光学部教授の尾久土正巳先生と、ゲストにジャズボーカルの中谷泰子さんをお迎えして、天文の話とジャズを楽しむカフェバーを開催。「大昔、天文学と音楽は同じジャンルの学問で天体の運行に見られる規則性や調和は、音楽理論と通じるものでした。そんな天文学と音楽を共に楽しむのが、宇宙バー。素敵な音楽とともに宇宙の中のハーモニーを楽しんでいただきます」というコンセプトのもとに実施した。



サイエンスを身近に！市街地のカフェバーで開催



「宇宙バー」「ジオカフェ」の募集告知チラシ

1-4 大学同窓会組織との連携

《同窓会主催の「紀州郷土学のフィールドワーク」を実施》

県自然環境室が募集した「南紀熊野ジオパーク活動調査研究事業」へ申請を行い、「南紀熊野ジオサイト見学・学習会」と題して開催。今後、同窓会提案の事業や活動を進めるための情報収集に「交流シート」を配布して同窓会生の自主的な運営の支援を行った。

①「南紀熊野ジオサイト見学・学習会」

開催日：平成25年12月1日（日） 参加35名参加

会場：午前8時集合～バスにて見学17時半解散（Big・U 研修室2にて質疑）

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト同窓会

引率：和歌山大学教育学部久富教授、此松教授、観光学部中串准教授

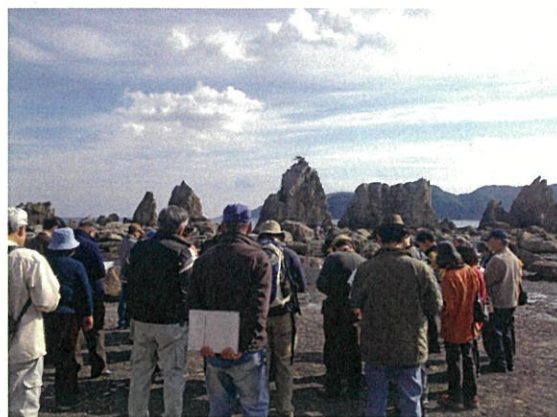
バスの借上げは、南紀熊野ジオパーク活動調査研究事業の助成を受けて実施。

内容：授業の受講者に加えて一般住民も募集して40名を超える参加者となった。ジオパーク研究活動調査としてアンケート調査を実施。専門用語の分かりにくい言葉や快適に見学するための工夫など調査した。講師に学部開放授業「紀州郷土学A」を担当した教員3名が参加。

県内南部のジオサイトを大型バスで巡り見学を行い、南部の地質や植生、食文化について地質巡検を実施。和歌山県が進めるジオパーク活動への理解を深めるための見学・学習会を開催する。

学習会の後に、参加者へのアンケート調査を行い理解の度合いを量る。参加者が理解し難いジオサイトにはどのような説明が不足しているか。学習会に同行する教育学部、観光学部教員等と考察する事を目的に開催した。

行程：橋杭岩（串本町）→さらし首層（串本町）→江須崎（すさみ町）→志原海岸（白浜町）→救馬溪観音（上富田町）→円月島（白浜町）



南紀熊野ジオサイト候補地の見学会の様子（串本町橋杭岩）

②同窓会交流シートを配布

今年度より自主的な同窓会事務局組織の立ち上げに協力を行い、同窓会員の有志の方と共に受講生の交流を目的に「交流シート」を配布するなど連携を実施。

【2】地域研究・生涯学習部門

2-1 地域研究関係

《学内の研究プロジェクトや教職員の地域活動の支援、学生の現地活動に支援を実施》

和歌山大学 独創的研究支援プロジェクト「地域を支え地域に支えられる大学づくりプロジェクト」（旧地域貢献機能充実を図るためのプロジェクト事業）での地域ニーズの把握と、学内教員と連携するコーディネートを実施。南紀熊野地域での地域研究に繋げた。

①紀伊半島のデジタルアーカイブ作成と高度利用システム

実施日：平成25年4月1日～平成26年3月31日迄の事業

内容：平成25年度「独創的研究支援プロジェクト」A

紀伊半島の特有の地形、気候、植生などと学内の知的資産を情報通信技術と有機的に結びつけて活用するためのデジタルアーカイブの構築および整理、収集から紀伊半島における文化的、歴史的、地形的な情報を分析して地域の特徴に適した観光利用、教育利用可能なシステムやサービスの実現を目指して実施。この事業に参画して、紀伊半島南部の情報収集に協力した。

②防災プロジェクト

防災講演会の開催支援他、

講演名：「地域を守り抜く力！」—災害に強い紀伊半島を共に—

開催日：平成25年2月1日（木）10：00～16：00 参加150名

会場：新宮市職業訓練センター（新宮市）

主催：和歌山大学地域創造支援機構防災研究教育センター他、共催：(公社)地盤工学会関西支部他
後援：和歌山県他 講演者：和歌山大学独創的研究支援プロジェクト担当教員8名

内容：和歌山大学独創的研究支援プロジェクトの事業報告会と意見交換を目的に講演会を開催。

開会挨拶：平田健正機構長（和歌山大学理事・地域創造支援機構長）3部構成にて、セッション1「平成23年台風12号」セッション2「実演&ポスター」セッション3「地域防災力」とテーマを分けて8名の学内外の研究者が講演。台風12号災害の発生時の様子や各地で被害が出た土石流などの災害のメカニズムと地質との関連性や災害後のダム流木の廃棄物の利用提案や木造仮設住宅等の研究など、幅広い研究成果が紹介された。同じ会場内に設置された展示ブースでポスターセッションが行われ、最新技術や研究成果について7名の教員や学生が直接説明を行うなど、広域から参加した地域住民や行政担当者等との意見交換や交流を深めた。



防災講演会の様子（新宮市職業訓練センター）



新しい研究技術のポスターセッションの様子

③高等教育機関コンソーシアム和歌山・平成25年度大学等地域貢献促進事業

「紀南地域のジオコンテンツと文化精神性との関連性探求とフィールドガイド養成のための教材開発」

実施日：平成25年4月1日～平成26年3月31日迄の事業

内容：学内ジオツーリズム研究会の研究者に加えて、学内観光学部の環境倫理のご専門とシステム工学部の地盤災害等を専門とする研究者と共に、和歌山高専の教員等で複合した学問領域の専門家にて構成されたグループで実施された。「紀南地域のジオコンテンツと文化・精神性との関連性の探求とフィールドガイド養成のための教材開発」として行われたもので、先進地視察と県内ジオサイトでの聞き取り調査に同行。研究調査の成果報告の冊子「南紀熊野で地球に出会う」ー自然信仰から防災ジオツアーまでーが発行された。研究会の教員等と共に、県外先進地視察を実施した。隠岐ジオパークで開催された「日本ジオパーク大会」、及び米子市で開催された「エコツーリズム世界大会」に参加。南紀熊野ジオパークでの教育研究活動の推進への可能性を検証した。また、県内のジオサイトと精神性についての関連を有識者に聞き取りを行うなど県内調査に同行。



現地での聞き取り調査の様子（本宮町）



研究会での成果報告冊子

④扇ヶ浜海水浴場のイルカと触れ合うイベントにて、メンタルヘルス調査活動に協力

開催日：平成25年7月26日（金）～27日（土）

会場：田辺市扇ヶ浜海水浴場イルカと触れ合えるイベント会場

内容：山本朗准教授、調査チーム（和歌山大学保健管理センター）等が、イルカに触れる前と後で触れた人のストレス値の変化を調べて、馬や犬と触れ合う事と同様に人への癒しの効果があるかを検証する調査を行った。ストレス値の変化は唾液に含まれる成分の数値の変化を参考に実施。2日間に渡り来訪客を対象に調査を行った。同時に日常生活や海への愛着、イルカの感想などアンケートを実施。数値変動の要因を探った。この調査活動の現地支援を行った。



扇ヶ浜海水浴場での活動支援（田辺市）

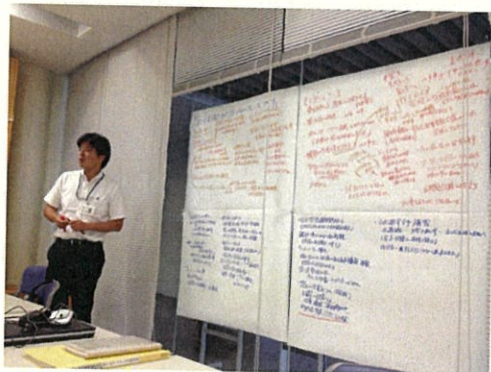


数値を継続する研究調査風景

2-2 生涯学習関係／講座・セミナー

《県教育委員会や地域連携・生涯学習センターと連携、地域課題に寄り添う取り組みに参画》

- ①地域課題解決プロジェクト支援事業（県教委—南紀熊野サテライト連携事業）西牟婁地域研修会参画。
- ②平成25年度マナビスト支援セミナー企画ゼミ紀南の部の後方支援。受講生の学びをサポート。
- ③地域生涯学習事業開発プロジェクト参画／地域発展学習プログラム開発と実施に関するセミナー支援。



西牟婁教育支援事務所主催の研修会（田辺市）



東牟婁教育支援事務所主催の研修会（北山村）

2-3 本学授業、学生との連携・支援

《学生の調査や研修時に地域情報を紹介するなど活動支援を実施》

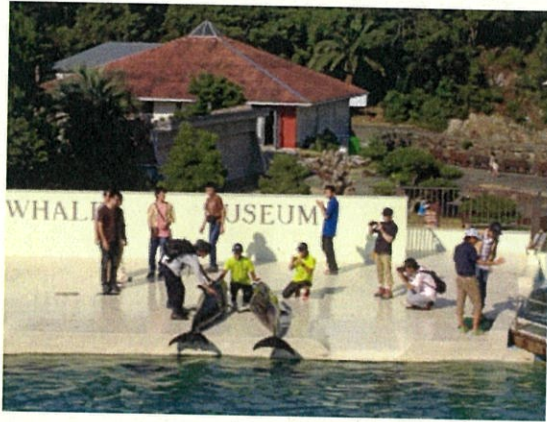
学生の南紀熊野地域でのフィールドワークや各種企画の相談や現地調整。教員の地域研究教育の支援。保健管理センター、学生グループと連携して南紀熊野での研修の協力を行った。

①「南紀熊野メンタルヘルス研修会2013」

開催日：平成25年8月22日（木）～23日（金）1泊2日 参加19名

講師：保健管理センター山本先生、西谷先生、他スタッフ、広報室小西係長参加

- 内 容：メンタルヘルスケアに関心のある学生、希望者を対象に学内に募集。1泊2日にて研修を行った。和歌山県南紀熊野エリアにて、歴史・文化に触れつつ、多文化共生の視点を持ったメンタルヘルス及びイルカ介在活動の研修を実施。昨年度より、学生サークル「アミーゴの会」と、保健管理センター医師、保健師と南紀熊野の自然体験での癒し効果と多文化共生について研修を実施している。太地町立くじらの博物館（学芸員ガイド依頼 40分、イルカふれあい体験 30分）→熊野古道大門坂見学（語り部ガイド 60分～120分）、那智の滝、本宮大社等見学等。
- 行 程：和歌山市（大学発）→本宮町経由→くじらの博物館（太地町）→那智勝浦町にて夕食、宿泊→那智勝浦町（大門坂）→本宮大社→和歌山市（大学着）※貸切バス利用



太地くじら博物館に訪問した学生（太地町）



熊野古道を見学する学生（那智勝浦町）

①アート田辺に協力

名 称：「まちのヒミツ☆発見隊」

開催日：平成25年7月27日（金）～28日（土）10：30～16：00

会 場：田辺駅周辺の商店街や市街地

企 画：永瀬ゼミ学生（観光学部）

内 容：地域の小学生を対象として、「まちのヒミツ☆発見隊」と題して、まち歩き企画を開催。商店街の協力店舗に、まちの歴史にちなんだクイズパネルを設置して、クイズラリーを実施。小学生等が店主にまちの昔の話を聞きながらクイズを解くことで、まちの魅力を発見する取り組みとなった。



「まちのヒミツ☆発見隊」地域小学生対象にしたまち歩き企画の様子（田辺市街地）

2-4 展示関係

《紀州博物館の協力を得て、田辺市街地の今昔をパネルや映像で紹介する展示を開催》

田辺市街地の今昔をスライドショーで上映。パネルも同時に配置して、まちの様子の変り変わりを展示した。企画から観光学部永瀬ゼミが行い、事前に紀伊田辺駅周辺の調査を実施。紀州博物館に所蔵の昭和の田辺市街地のまちなみと比較するなど、まちなみの移り変わりの年表や昔の芸者や駅の様子など暮らしの写真を空き店舗に展示。当日に来館した地域住民の方から学生が当時の思い出を聞き取り調査を実施。まちのストーリーとして報告書に纏めた。若い店主も多数来館して子供の頃の思い出など学生の聞き取り調査に協力。交流の機会となった。

名 称：アート田辺「通り×STORY」プロジェクト

開催日：平成25年7月27日（金）～28日（土）10：00～16：00

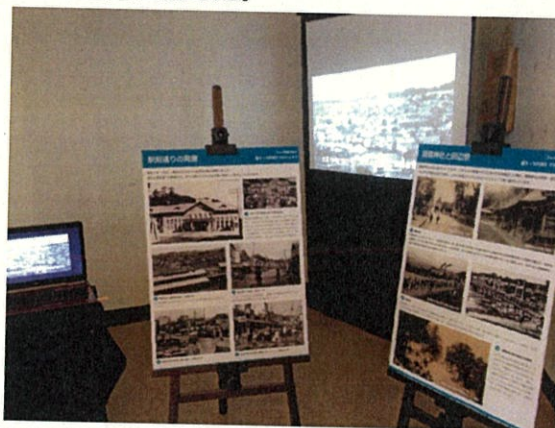
会 場：田辺駅周辺の商店街や市街地

企 画：永瀬ゼミ学生（観光学部）、協 力：玉田伝一郎氏（紀州博物館：白浜町）

内 容：紀伊田辺駅周辺のまちなみの様子をパネル展示。今昔のスライドショーやまちのお気に入りや思い出話を訪れた地域住民から聞き取り、開催の報告書に纏めた。



駅周辺の今昔をパネルに展示



展示会場の様子（スライドショーで今昔写真を上映）



地域住民から当時の様子を聞き取る観光学部学生



2-7 大学広報・情報提供関係

《入試広報物の配架や、学内広報室と連携した情報発信、わかりやすい広報媒体の作成を行った》

大学の情報誌などの配架や、学内広報室と連携してネット配信にて学内のサークル紹介やウエルカム動画などを配信できる「デジタルサイネージ」の設置を行った。南紀熊野サテライトのホームページの仕様を見やすく変更。また、写真を多用して、南紀熊野サテライトと大学の紀南地域の取り組みを分かりやすく紹介したパンフレットを作成するなど、学内外への情報発信の強化を行っている。

《広報活動の取り組みの事例》

- ①入学者選抜要項・教員免許状更新講習などの案内冊子の提供や相談対応。
- ②本学広報室と連携して紙媒体・本学ホームページを通じた広報を実施。
- ③地域連携・生涯学習センター発行「生涯学習ニュース」に南紀熊野サテライト通信を引き続き掲載。
- ④学内の広報室と連携して、学生活動動画をネット配信できるデジタルサイネージを設置。
- ⑤ホームページ、パンフレットを見やすい仕様に変更。
- ⑥観光学部新入研修の事前レクチャーにて南紀熊野サテライトと活動を観光学部新入生へPRを実施。
- ⑦地元ラジオ番組に出演して南紀熊野サテライトの活動をPR、受講生募集告知等を行った。
- ⑧今年度より、募集している授業内容を担当教員に概要紹介のVTR映像をHPにて配信。



募集中の授業紹介VTRをHPにて配信



地元ラジオ番組でサテライト活動を紹介



デジタルサイネージを設置



サテライト紹介パンフレットを作成

【3】地域連携・産官学連携部門／地域からの相談

3-1 大学との地域の連携・協働推進

《企業や自治体、教育関係からの相談対応や事業協力、活動支援を実施》

地域課題解決に向けて学内外の連携、協働を推進。サテライト所在のBig.Uの活用推進協議会のワーキンググループへの参加や、学内の教育支援フォーラムの配信講義への協力、南紀熊野ジオパーク推進協議会への活動支援を実施した。

- ①地域（行政、各種団体、事業者等）からの相談対応、事業協力。
- ②和歌山県電子自治体推進協議会情報系e-ねっと共同利用WG、Big.U利活用検討サブワーキンググループ会議に参画。南紀熊野サテライト活動紹介を行った。
- ③特別支援教育コーディネーターフォーラム遠隔開催サポート（和大本学→Big.U通信）今年度5回実施。
- ④高等教育機関コンソーシアム和歌山等の企画提案事業の南紀熊野地域説明会支援。

⑤「南紀熊野ジオパーク構想」推進協議会関連への活動協力を継続実施。

ジオパーク構想エリアでの「あるもの探し」(上富田町)、ジオモデルツアー会議(那智勝浦町)等、南紀熊野ジオパーク構想研究調査活動事業、ジオフォトコンテスト協力、南紀熊野ジオフェスタシンポジウムのパネリストとして登壇、など継続して推進協議会の企画へ活動協力や支援を実施。



ジオあるもの探し現地調査の様子(上富田町)



上富田町でのジオあるもの探し会議



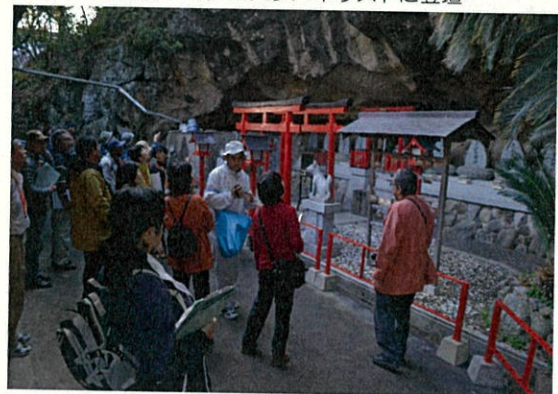
ジオフォトコンテストに協力



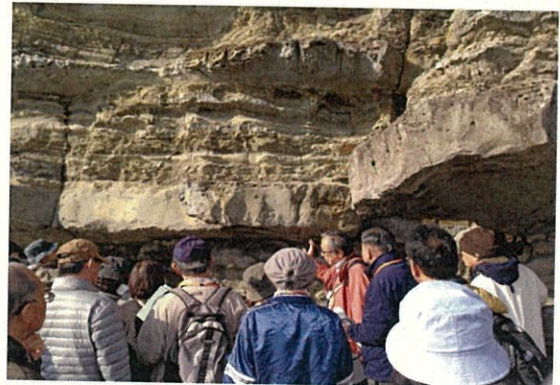
南紀熊野ジオフェスタパネリストに登壇



那智勝浦町でのジオモデルツアー会議



南紀熊野ジオパーク活動調査研究の様子



南紀熊野ジオパーク活動調査研究の巡検の様子(左側:すさみ町)、(右側:白浜町)

3-2 きのくに活性化センターとの連携

《きのくに活性化センターの会議や研究調査活動に参画》

支援組織のきのくに活性化センターと連携して、地域課題や地域資源について研究調査活動を実施した。

- ①きのくに活性化センター企画運営委員会など会議へ参画。
- ②きのくに活性化センター事業「廃校舎の利活用と地域再生」へ参画。
- ③サンマ食文化調査事業へ参画。
- ④「news きのくに」へサテライトの活動紹介記事を寄稿。



きのくに活性化センター総会



サンマ漁法や食文化調査風景（新宮市東方茶屋）

3-3 大学間連携

《県内コンソーシアム事業への参画や、全国の大学所属の地域連携コーディネーターフォーラムを開催》

県内コンソーシアムでの研究推進や、昨年度に続き全国の国立大学、公立、私大など30機関 51名の参加者と地域連携について情報交流する場をホスト校として実施。

①「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」

開催名：「第二回地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」

開催日：平成25年11月28日（木）～29日（金）1泊2日 30機関、51名が参加

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4（1日目）～白浜町三楽荘にて交流会
秋津野ガルテン2階会議室（二日目）田辺市上秋津町所在

内容：地域連携担当者を持つ機関や大学に幹事校として呼びかけ、情報交換の場として実施。

国立大学・公立大学・私立大学をはじめとした大学等、30機関51名が参加。

和歌山大学の3つのサテライトの活動事例の紹介や「和歌山大学（地域拠点を通じた地域の人材育成と活性化-観光・シオツーリズムにおける地域連携・コーディネート-）」と題して先駆的事例報告者として登壇。実施報告書となるブックレットへの論文寄稿。学内のコーディネーターと研究実践セミナーの企画運営を実施。セミナーでは、地域連携の先駆的事例報告として学生を通じた地域連携や地域課題解決と自治体連携におけるコーディネートや地域拠点を通じた人材育成と地域振興への取り組み成果の報告や分科会を開催。2日間に渡り議論を深めた。

※セミナーは本学事業で平成23年より継続開催。地域と大学を繋ぐコーディネーターネットワーク構築事業として開催。本事業では地域連携に関わる教職員・コーディネーターの人材育成、大学と地域の発展に向けた輿論づくり、地域型サテライトへの着目の3点を目的に、第二回の「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー（研修）」を実施している。



CDセミナーの様子（田辺市）



CDセミナーの様子（田辺市 秋津野ガルテン）

②他大学との合同調査ゼミの現地支援

開催日：平成25年12月19日（木）～22日（日） 参加11名（講師6名、ゼミ学生5名）

会場：田辺市秋津野ガルテン他

開催名：最先端・次世代研究開発支援プログラム（GZO05）によるワークショップ・エクスカージョン「アジア都市農村計画・交流事例収集」

内容：2013年12月19日（木）～22日（日）、都市農村混在地域（和歌山県、奈良県）におけるワークショップ・エクスカージョン「アジア都市農村計画・交流事例収集」を開催。

最先端・次世代研究開発支援プログラム（NEXT）アジア沖積平野立地型都市郊外における循環型社会を基調とした都市農村融合と戦略的土地利用計画の一部を秋津野ガルテンにて開催。

エクスカージョンで都市農村交流施設や都市農村混在地域における歴史的環境の開発事業などの多様な事例を視察。ワークショップでは、都市農村交流について、建築や都市計画など様々な分野の専門家による発表のほか、多角的な情報交換を実施。

行程：12月19日：観光資源としての農村景観と都市住民との交流事例の視察（あらぎ島）12月20日：都市農村交流施設の視察（龍神村アトリエ等）12月21日：秋津野ガルテン視察、みかん農園視察ワークショップ開催「都市農村混在地域における地域間共通点と相違点および比較指標の抽出」。アメリカ、タイの専門家、和歌山大学3名、筑波大学、摂南大学（本多友常先生：元和歌山大学システム工学部教授）等、和歌山大学システム工学部学生が参加。現地支援を行った。



ミカン農家を見学する様子（上秋津町原農園）



ミカンの種類や収穫について聞き取り



海外と日本の農業について英語での意見交換



秋津野ガルテンを見学する参加者

【4】本学対策本部分室の活動（台風12号対策）

4-1 台風12号対策（本学対策本部分室の活動）

①防災プロジェクトの防災講演会の開催支援（新宮市）

※開催の詳細は、「地域研究・生涯学習部門の地域研究関係の③防災プロジェクトの項」に記載。

②独創的研究支援プロジェクト・地域の特質を生かした防災型「地域イノベーション」創造プログラム「紀伊半島における災害対応力の強化—想定を越える災害への備え—」に地域連携担当として参画。

【5】運営基盤の強化／視察受入等

5-1 南紀熊野サテライト運営基盤の強化に向けて

《南紀熊野サテライト連携協議会の委員等とみらい戦略二期計画を策定H27年までの実施計画を設置》

「地域の知の拠点」として授業開催の機会提供だけではなく、紀南地域をフィールドとした「課題解決・地域価値創造」に資する教育（人材育成）・研究（理論と実践）・実践（政策・地域づくり）の発展を目的にみらい戦略二期計画を継続して策定した。具体的アクションプラン策定のために企画委員等と意見交換を行った。

①みらい戦略二期計画を策定

みらい戦略二期計画のアクションプラン策定については、企画委員と協議の上、今後の発展的な地域連携と地域課題解決等の教育・研究活動の充足を目的として、具体的な実践項目を第一期計画の27項目について見直しを行い。現状と課題を確認したうえで、達成した項目と未達成項目などの策定プランの分析を行い、重点的な20項目を（平成25夏期）策定。今後この計画を基に平成27年に迎える「南紀熊野サテライト10周年」を目指して更なる活動推進を目指す。平成25年～平成27年春の二年間の計画を策定した。

②その他

南紀熊野サテライト地域連携コーディネーター新任採用

5-2 南紀熊野サテライト視察の受け入れ

《他大学の視察の受入や学内教職員の視察受入を実施》

高知短期大学の視察の受入や和歌山大学の本学教職員への南紀熊野サテライトや南での活動理解を深めるために教職員自主研修と視察の受入を企画運営。学内外への活動理解を深める活動を実施。

①高知短期大学経済クラブ視察受入

高知短期大学経済学クラブと、和歌山大学南紀熊野サテライト社会人受講生の交流会を開催

開催日：平成25年11月23日（土・祝）14：30～16：30 参加者35名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U ネットワーク実習室

内容：高知短期大学経済学が毎年実施している先進地視察での受け入れを実施。南紀熊野サテライトの設置に至る経緯や、これまでの活動を紹介。経済学クラブの参加者と南紀熊野サテライトの社会人受講生の方と、地域に根ざした大学拠点として、地域密着型にて地域に学ぶ場があることは所在の地域や生活者にとってどのような意味があるのか意見交換を実施。

※ 高知短期大学より26名参加、南紀熊野サテライト社会人受講生9名、大泉サテライト長参加。



高知短期大学経済クラブと記念撮影



社会人受講生同士の意見交換の様子

②学内教職員研修の視察受入

開催日：平成25年9月12日（木）～9月13日（金） 参加14名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 講師控室、秋津野ガルテン、白浜三楽荘

内容：教職員合同合宿勉強会コミュニケーション実践グループワーク、ITを使ったコミュニケーションツールについて



大学と地域との関わりを学ぶ教職員（田辺市秋津野ガルテン）



三楽荘での研修の様子（白浜町）

5-3 会議運営・他サテライトとの交流会、和歌山大学の最前線拠点として

《各種会議運営や南紀熊野サテライトや和歌山大学の活動成果の情報発信を実施》

- ① オフィス会議、南紀熊野サテライト連携協議会総会、幹事会、企画運営会議の会議事務局を担当。
- ② 和歌山大学の全学の最前線拠点・情報拠点として、大学案内・入試案内・各種情報提供を地域で行うと共に、南紀熊野地域の知の拠点として、教育研究事業への参画・連携、情報発信等の活動を実施。
- ③ 「NEWS きのくに」、 「大学地域連携研究」 に寄稿するなど成果報告や活動成果の情報発信を実施。



「NEWS きのくに」への寄稿で活動報告



発行された「大学地域連携研究」

以上

あとかぎ

本年度もサテライト事業の展開・企画遂行、地域連携事業が多岐にわたり、さまざまな成果となった。これらは、サテライトオフィスだけでは達成されるものではなく、受講生の皆様、地域の皆様、学内の皆様、関係者の皆様の支えがあって実施されたものである。皆様に厚く御礼を申し上げます。

今後も「地域を支え地域に支えられる大学」の実践に向けて、様々な取り組みを実施します。

和歌山大学南紀熊野サテライト